



折原透高さん（右）と妻の千鶴さん

果樹とイチゴで年間通じて「旬」

挑戦、多品種組み合わせ

春日部市 折原さん

【埼玉】春日部市にある（株）なが街道の代表取締役・折原透高さん（38）は、梨を主力に果樹とイチゴを直売している。梨の栽培面積は2・1ヘクタールで県内トップクラス。果樹はブドウ、キウイフルーツ、柿など幅広く栽培している。

もともと梨栽培から始まった果樹園だが、販売促進と消費者の満足度向上のため、2020年から新たにイチゴの高設栽培を開始した。労働力は折原さん夫妻と両親、従業員12人。さまざまな果樹とイチゴを組み合わせたことにより、年間を通して旬の果物を楽しむこ

とができるのが同農園の強みだ。

折原さんは「安心して安全な旬の果物、おいしいといってもらえるものを届けること」「お客さまの声を大切にすること」を大事にしている。これまでも理想の果樹園をめざし、消費者の声に耳を傾けてきた。お客さまへの感謝の気持ちを忘れず、真摯に対応することを心がける。シーズン中は多くの消費者で園内がにぎわい笑顔があふれる。気

持ちの良い接客や雰囲気づくりも人気の秘密だ。

よりおいしい果実を生産したいと栽培方法を毎年変えて工夫を凝らす折原さん。さまざまな作物を栽培することで視野が広がり、他の作物にも取り入れるアイデアが浮かぶという。梨栽培では、地域でいち早く梨ジョイント仕立て栽培を取り入れた。

先代が加工にも取り組み、ジャムやジュースを開発・販売している。何

事もチャレンジが大事だと話し、おいしいものを作るには従業員の働きやすさも大事だと考え、子育て中の従業員には短時間労働を認めるなど従業員が気持ちよく働けるよう心がけている。

「今後は梨、ブドウ、イチゴを柱に規模を拡大して、将来的にはそれぞれを部門として独立させ、次の世代につなげたい。恩師やお世話になった人々に恩返しとして感謝を形にできる仕事。その夢に向かって従業員全員で果樹園を作り上げた」と熱い思いを語った。